

スマート農業技術体験の実施について

今回のシンポジウムで取り上げている株式会社おしの農場では、ドローンやトラクタの自動操舵システム等のスマート農業技術を積極的に導入されています。

そこで、シンポジウム会場内におきまして、スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA（イプサ））事務局※のご協力により、

①MR技術を用いたドローンの操縦体験

②農機のシミュレーションゲームを用いた操縦体験

などを行うこととしております。

詳しくは、次頁からの「IPCSA特別企画 スマート農業技術を体験しよう！」をご覧ください。

（公益財団法人 日本農林漁業振興会）

実施時間 12：00～13：15 及び シンポジウム終了後～16：30

【シンポジウム開催時間 13：30～16：00（終了予定）】

※IPCSA事務局（農林水産省技術政策室 及び

農研機構本部スマート農業施設供用推進プロジェクト室）

IPCSA特別企画 スマート農業技術を体験しよう！

経営面積の拡大と将来の経営継承を見据え、**ドローン**や**トラクタの自動操舵システム**等の**スマート農業技術を積極的に導入**していることが、おしの農場様の**天皇杯受賞理由の一つ**となっています。

スマート農業技術の体験ができるブースを設置しますので、ぜひお越しください。

① ドローンの操作体験



MR技術（現実空間にデジタル情報を重ね合わせる技術）を用いてドローンの操縦体験ができます。スマートグラスを装着し、ドローンをその場で飛ばしているかのような体験が可能です。

② 農機の操縦体験



農業シミュレーションゲームを用いて、田植え機等の農機の操作体験ができます。

また、直進アシストや自動操舵等のスマート農業技術を疑似的に体験することも可能です。

（参考）スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）について

- スマート農業技術活用促進法及び基本方針に基づき、スマート農業技術の開発と普及の好循環の形成を推進していくため、農業者が中心となって運営する多様なプレイヤーが参画したスマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）※を設置。
※IPCSA : Innovation Promotion Conference for Smart Agriculture
- 同会議において、生産と開発の連携、情報の収集・発信・共有、関係者間のマッチング支援、人材育成等を通じ、コミュニティ形成を促進することとしており、令和7年度より本格的に活動を開始。

■ IPCSAの構成員



※会員数：1,374（R7.12.4時点）

■ IPCSAの運営

○ 運営委員

- （株）浅井農園 浅井 雄一郎 代表取締役【運営委員長】
- （株）アグリーンハート 佐藤 拓郎 代表取締役
- （株）鈴生 鈴木 貴博 代表取締役社長
- （株）ファームノートデーリィプラットフォーム 平 勇人代表取締役
- （株）日本農業 内藤 祥平 代表取締役CEO
- （株）三浦農場 三浦 尚史 代表取締役
- （株）日本総合研究所創発戦略センター 三輪 泰史 チーフスペシャリスト

○ 事務局

農水省技術政策室及び
農研機構スマート農業施設供用推進プロジェクト室

詳細及び
入会は[こちら](#)



(参考) IPCSA 設立総会の開催 (R7.6.27)

- 農業者、民間企業、地方公共団体、大学、研究機関等の約1000名の多様なプレーヤーが参画。
- スマート農業の推進に意欲的な農業者、スタートアップ、有識者等による講演及びパネルディスカッション等を実施し、**スマート農業技術の活用に向けた参加者の機運を醸成**。
- 参加者との意見交換を通じて、スマート農業技術を活用して「**儲かる農業**」を目指すこと、**世界をリードする優良な成果や技術を創出**していくこと等、IPCSAの役割や活動の重要性について**共通認識を深めた**。

設立総会当日の様子

○政務官挨拶



山本政務官

○事務局挨拶



農研機構
久間理事長

○決意表明



浅井運営委員長

○IPCSA活動紹介



農水省
齊賀技術政策室長

○基調講演



女子栄養大学
中嶋教授

○スマート農業技術活用促進法に基づく計画認定者の取組紹介



(株)おしの農場
押野専務

○閉会挨拶



(株)Root
岸代表
農水省
堺田技術総括審議官

参加者からの主な意見

- スマート農業を導入することを目的としてはいけない。「**儲かる農業**」を目指し、経営の基盤安定や次世代への継承にとって**スマート農業が必要であるという共通認識の下でIPCSAの活動が推進されることを期待**したい。
- **インプットをいかに少なくして、アウトプットを最大化できるかがポイント**。地域ごとに、**その作物の一番の理想形を示すことができるかが重要になる**。
- 特定の品目や経営、中山間地など、マーケットが小さく**単独で解決できない課題でも、IPCSAを通じて、他との共通点を見出すことができるのではない**か。
- データ活用などのサービス支援の展開では、熟練者が新規就農者かなど**利用者の属性によってサービスの設計が変わってくる**。そこで**差別化していくことが必要**はないか。
- **世界から評価される成果や技術を生み出し、グローバルな活動の展開に期待**したい。
- とてもワクワクしている。IPCSAの中で、先進的な農業者等から、**これまでの課題やこれからの可能性などをもっと学びたい**。
など

○パネルディスカッション



(左から三輪氏、浅井氏、鈴木氏、平氏、内藤氏、押野氏、岸氏)

○交流会



(参加者間の交流)



(スマートグラス実演会)

(参考) IPCSAの主な活動

①情報の収集・共有・発信

- 専用サイトでスマート農業に関する最新情報を発信
- 国内外の技術動向、スマート農業技術による経営効果などの独自調査を実施



(専用サイトで情報発信)



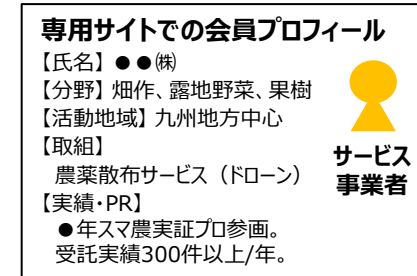
(優良事例等の情報発信)

②関係者間のマッチング

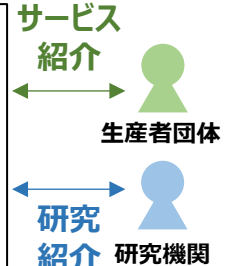
- 各種イベントによる交流・マッチングの機会づくり
- 専用サイトで会員間のコミュニティ形成を促進



(各種イベント実施)



(専用サイトでの会員間マッチング)



③人材の育成

- スマート農業技術を使いこなせる人材の育成に寄与する研修情報の発信、モデル的な研修の実施



(全国各地の研修情報の整理・提供)

内容・
テーマ
を設定

IPCSA独自のモデル的な研修を実施

【テーマ・内容案】

- ・ スマート農業技術の有効活用による経営改善ノウハウ
- ・ スマート農業技術に適した新たな生産方式の導入

④技術的な検討

- スマート農業技術活用に意欲的な農業者を中心に、課題解決に向けた議論・検討の場を設置

プラットフォーム

営農類型ごとの農業者を中心に設置し、課題や技術開発・普及等について検討

水田作

畑作

露地野菜・花き作

果樹・茶作

施設野菜・花き作

畜産・酪農

検討会

プラットフォームの枠を超えて対応すべき課題を議論